

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所  
162-0805 東京都新宿区矢来町65  
電話 03(5228)3171 FAX 03(5228)3175  
発行者 総主事 司祭 三鍋 裕

## 見えないものへの責任

管区事務所総主事 司祭 ローレンス 三鍋 裕

6月17日に鎌倉聖ミカエル教会で行われた国連環境特別問題顧問の末吉竹二郎氏による講演会にご一緒させていただきました。テーマは「環境問題」、特に地球温暖化の問題です。さすがは専門家で、2時間半のお話で問題の深刻さと、私たち一人ひとりが変わらなければならない点を分かりやすく話してくださいました。

人間が生活すれば、単に呼吸をしているだけでも地球温暖化物質とされる二酸化炭素つまり炭酸ガスを排出する。植物の光合成などで自然に地球環境を維持できる量の2倍を排出している。産業革命までは石炭を使うといっても暖房や調理くらいのもので、許容範囲であったが、産業革命以来二酸化炭素の排出量は増加し続けている。その結果、過去100年間地球の平均気温も上昇を続けている。地球環境の維持の上限は上下2度の変化とされるが、これは平均であるから地域によってはもっと大きな変化を招いている。炭酸ガスなどが地球温暖化の原因であるとするのは仮説といわれた時代もあったが、今では定説となっている。

では、どのような変化をもたらしているかということ、過去の記録から最も暑かった年を順番に11番目まで並べると、これらは過去12年に集中している。今年の夏も暑そうです。この気温の上昇で北極の氷が溶けて北極熊が溺れ死んでいる例があるし、海面が上昇して沈みそうな島国もある。南方の伝染病とされていたマラリヤはもちろん、デング熱が日本に侵入するのは時間の問題とされている。確かにヨーロッパの熱波やオーストラリアの旱魃と洪水は地球環境の変化を別にしては考えられない。当然食料生産にも影響が出ている。品種改良の成果もあるが、北海道産のお米が人気になっている。いずれジャポニカ米の主産地は北海道になるであろう。逆に言えば、今までと同じ作物が育たない地域が出てくるということである。状況は確実に悪化している。

では、どうすればよいのか。二酸化炭素を中心とする地球

## 会議・プログラム等予定

(前回報告以降追加)

および6月25日以降)

6月

- 4日(月)女性デスク打ち合わせ
- 13日(水)正義と平和・憲法プロジェクト
- 14日(木)女性デスク会議(京都)
- 25日(月)~26日(火)文書保管委員会
- 25日(月)ウィリアムズ主教記念基金委員会(立教大学)
- 26日(火)収益事業委員会
- 26日(火)~29日(金)日韓社会宣教交流会(ソウル)
- 30日(土)正義と平和・ジェンダープロジェクト(京都教区センター)

7月

- 5日(木)神学教理委員会
- 5日(木)人権担当者会
- 6日(金)~7日(土)日韓聖公会青年セミナー事前学習会(名古屋学生青年センター)
- 9日(月)正義と平和委員会
- 10日(火)正義と平和・憲法プロジェクト
- 10日(火)主事会議
- 12日(木)常議員会
- 15日(日)~16日(月)各教区青年担当者会(名古屋学生青年センター)
- 17日(火)~19日(木)在日韓国出身教役者の集い(東京)
- 18日(水)渉外主査会(延期)
- 18日(水)聖公会/ルーテル教会協議会
- 19日(木)法規委員会
- 23日(月)聖公会/ローマカトリック教会合同委員会
- 23日(月)~24日(火)文書保管委員会
- 25日(水)礼拝委員会
- 25日(水)年金の将来を検討する特別委員会

8月

- 1日(水)宣教150年記念礼拝実行委員会
- 8日(水)~14日(火)日韓聖公会青年セミナー(韓国ソウル)
- 20日(月)~21日(火)礼拝委員会(聖歌部門)

(次頁へ続く)

温暖化物質の削減しかない。先のハイリゲンダム・サミットでは、二酸化炭素排出量を2050年までに半減するとの合意がなされた。アメリカが加わった大きな要因は、ゴア前副大統領の「不都合な真実」に対する活動もあるが、ハリケーン・カトリーナの被害といわれる。脅威はテロだけではないということらしい。東京都も2020年までに25%削減の目標を打ち出した。工場や発電所だけではなく、船舶、自動車、航空機にも規制が加えられるであろう。多少の不便さは忍ばねばなるまい。

しかし、工夫できることもある。観光地鎌倉でも導入されているが、郊外に駐車場を整備して都市への自動車の流入を防ぐ。その代わり渋滞の少なくなった市街の公共交通機関を整備する。これはパーク・アンド・ライドというそうです。たまにしか使わないのなら自動車も一家に一台を止めて、共有にすれば台数が減る。本当に必要なときにしか自然に運転しなくなるでしょう。カー・シェアリングというそうです。

地球環境を変えるためには、私たち自身の価値観の変化が求められそうです。水や電力は本当に節約できないのでしょうか。極端なことは困りますが、暗さや暑さが風情として楽しめた時代があったと思うのです。途上国の健全な農業を支援するフェア・トレードを別にすれば、遠いお国から食料を運んでくる代わりに、近くで生産される食料で満足できれば、運搬の段階で出る二酸化炭素も減らせます。フード・マイレージというそうです。耳の痛い話ですが、モットイナイ精神を忘れて食料の4分の1がゴミとなっている現実、メタボリックを気にしながらです。

色々な問題に声を上げますが、環境の問題は私たちが確実に成果を上げることの出来る問題です。私たち一人ひとりが責任を共有しなければ、決して解決しない問題でもあります。これ以上電力を使うと、新たに発電所が必要になります。無理な食糧生産は地球の力を衰えさ

(前頁より)

20日(月)~22日(水)人権セミナー  
(福岡、熊本)

27日(月)教区制改革委員会

27日(月)~28日(火)文書保管委員会

関係諸団体会議等

6月29日(金)NCC常議員会(深川教会)

せませすし、ゴミを増やします。

私たちは見えないものに対する責任があると いわれます。第一に他のお国の人々への責任。大地の恵みを分かち合いながら地球を守る責任。その意味では富める国が貧しいお国からCO2排出権を買い取って、数字だけを合わせるというのには大いに疑問があります。第二の責任は子孫に対する責任です。孫とは可愛いものですが、遠い将来ではなく孫の生活が危ないという問題なのです。講師が紹介して下さった19世紀の米国先住民のことは「最後の木が死に、最後の川が毒され、最後の魚を獲ったとき、人は、お金は食べられないと気付くのだ」。

そして講師が触れられなかった私たちの見えないものへの第三の責任。それは創造主への責任ではないでしょうか。与えられた賜物を分かち合い、正しく用いることは正義と平和の問題でしょう。

もちろん他にも多くの例がありますが、管区主催でもなく教区主催でもなく、一つの教会が自分たちの問題として学びのときを持たれたことに感謝します。環境の問題に限らず、一つ一つの事柄について、「神様の御眼には本当にこれで良いのだろうか」と、もっと小首を傾げる必要があると思うのです。

### 主事会議

第56(定期)総会期第10回6月11日(月)  
主な協議

1.「子ども平和会議2007」に対する協力金

### について

NCCの要請に応じて協力金を出すこととした。

・日時:7月30日(月)~8月2日(木)3

泊4日

- ・ 会場：ソウル市内
- ・ 対象：10～13歳、韓国側20名、日本・在日コリアン20名 計40名
- ・ 主催：NCC韓国と日本キリスト教協議会

## 2. 在日・韓国出身教役者の集い開催について

開催のための予算90万円を、大韓聖公会オモニ会、日本聖公会、参加教役者および所属教区がそれぞれ3分の1ずつ分担する予定。

- ・ 日時：7月17日(火)～19日(木)
- ・ 場所：東京、管区事務局
- ・ 参加者：13名

次回以降の主事会議

7月10日(火)、9月3日(月)

## 各教区

### 横浜

- ・ 2007年夏期礼拝音楽研修会 あたらしい聖歌集を味わう 8月28日(火)～30日(木) 清里・清泉寮 講師：スコット・ショウ氏(立教学院諸聖徒礼拝堂聖歌隊隊長、立教大学文学部キリスト教学科教授)参加費：23000円 申込締切7月28日 主催：横浜教区礼拝音楽委員会 問い合わせ：千葉復活教会・河崎司祭

### 中部

- ・ 沖縄・スタディツアー 8月23日(木)～27日(月)費用：98,000円 戦跡・基地めぐり、沖縄の歴史・文化についての学び等。主催：名古屋学生青年センター 中部教区宣教部沖縄プロジェクト
- ・ フィリピン・スタディーツアー 8月18日(土)～27日(月)費用：19万円 訪問予定地：メトロマニラ...ナボタス漁港、トンド地区など。セブ島・ボホール島...ODAによる開発地区など。主催：名古屋学生青年センター、フィリピン情報センター・ナゴヤ、中部

教区宣教部海外協働プロジェクト

\*上記の問い合わせ：いずれも名古屋学生青年センター

### 神戸

- ・ 広島平和礼拝2007 とともに学び、行動し、祈ろう 8月5日(日)～6日(月)場所：広島復活教会～平和公園～カトリック平和記念聖堂 申込締切：7月15日 問い合わせ：広島平和礼拝実行委員会事務局(広島復活教会内) 広島平和礼拝ホームページ <http://www.hrc-nskk.jp/hpps2007/>

### 沖縄

- ・ 慰霊の日礼拝 6月24日(日)15時 北谷諸魂教会 司式：谷昌二主教 講演会講師：辻雄二氏(琉球大学准教授)
- ・ 「平和の礎」名前の読み上げ 北谷諸魂教会 6月23日(土)16時 新たに刻まれた235人の名前を読み上げ、平和の祈りをささげる。

## 諸団体

### 日本聖公会GFS

- ・ GFS大会 7月26日(木)～7月28日(土) 横浜

### 日本聖公会関係学校協議会

- ・ 第50回聖公会関係学校教職員研修会 8月21日(火)～23日(木)箱根

### 聖公会女性フォーラム

- ・ 第15回聖公会女性フォーラム いちゃりばちょ～で～(出会えば姉妹)7月5日(木)～7日(土)沖縄 主催：沖縄教区女性フォーラム準備会

† 逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

マリア 鈴木嵯峨(元伝道師、神戸)

2007年6月13日(水)逝去(94歳)

## 《人 事》

## 東京教区

< 信徒奉事者認可および分餐奉仕許可 > 2007年4月1日付  
 ( 清瀬聖母教会 ) 工藤敦司、菅浪正雄、麦倉 稔  
 ( 聖愛教会 ) 菊地英彰、大洞勝彦

## 横浜教区

< 信徒奉事者認可 > 2007年4月11日付  
 ( 市川聖マリヤ教会 ) 宮下栄壘、吉田仁志

## 大阪教区

< 信徒奉事者認可 > 2007年5月1日付  
 ( 大阪聖三一教会 ) 大西 温

## 九州教区

司祭 ヨシュア文屋善明( 京都・退 )2007年5月1日付 九州教区諸教会を援けるため協働司祭として働くことを委嘱する。ただし任期を1年とする。

## 《移 動》

田辺聖公会シオン会 名称変更 ( 新 )田辺聖公会愛の園シオン会

## 聖公会 - ルーテル国際委員会・ノヴァスコシア会議報告

司祭 西原廉太

2007年5月14日から20日にかけて、カナダ・ノヴァスコシア、ホワイトポイントを会場に、第3期聖公会 - ルーテル国際委員会( ALIC )第2回委員会が開催された。ALICは、1970年以來、世界レベルでの聖公会とルーテル教会間の対話を促進するために、アングリカン・コミュニオンとルーテル世界連盟( LWF )が共同して設立したものである。これまでのALICの成果としては、教会の宣教と按手された奉仕職についての両教会の合意である『ナイアガラ・レポート』( 1987年 )、執事職をめぐる問題点を整理したいわゆる『ハノーヴァー・レポート』( 1995年 )、また近年、世界各地で発展しつつある聖公会とルーテル教会のフル・コミュニオン( 完全相互陪餐 )をめざす対話の成果をまとめた資料集『コミュニオンにおける成長』( 2002年 )などがある。

新たに開始されたALICの第1回委員会は昨年1月にタンザニアのモシで開かれた。その際、複数のテーマに基づいて、ワーキング・グループが形成され、今回のノヴァスコシア会議ではワーキング・グループの報告に基づき、集中した議論が展開された。当初、ALICのメンバーは、聖公会側、ルーテル側、それぞれ5名で構成されていたが、今回のノヴァスコシア会議から、各1名委員を増やすことが決まり、聖公会側委員として、筆者が加えられることになったものである。アジア地域からは両教会合わせて私一人だけであるので、アジア全体の状況を意識しながら、かつ聖公会側代表として発言することが求められた。

日本聖公会と日本福音ルーテル教会間で2002年に両総会で決議された協約を、今回正式にALICに報告をしたが、これまで、日本

における対話については一切の情報がもたらされていなかったこともあり、大変に注目された。日本における協約は、洗礼の相互承認と「ユーカリスティック・ホスピタリティ」(相互の信徒の陪餐への迎え入れ)を核とするもので、米国のように、ルーテルの按手による歴史的な主教職の回復といったところまでには至らないが、より現実的な対話のモデルとして評価された。

ノヴァスコシア会議で取り上げた議題は、各地域における対話の成果、歴史的な主教職(監督職)、共同の宣教課題、執事職について、世界レベルでの聖職者の交流、交換の可能性、神学教育における協働、教会論、教会間対話における言語(用語)、等々実に多岐にわたるものであった。とりわけ、今回の委員会は、この3月26日に公表されたルーテル世界連盟の『ルンド声明』(「教会の使徒性の内にある監督の職務」)を、今後の聖公会とルーテル教会間の主教職(監督職)理解を革新的に進める視点を有しているものとして歓迎した。

またノヴァスコシア会議では、かなりの時間を、『聖公会契約』(Anglican Covenant)をめぐる議論に費やした。今般のアングリカン・コミュニオン(聖公会)の緊張関係を修復させるためのいわば聖公会内の事柄ではあるが、一方で『聖公会契約』に示されているいくつかのポイントは、同時にエキューメンカル対話にも大きな影響を及ぼすという認識で一致した。とりわけ、首座主教やカンタベリー大主教の権威の強化は、教会の団体性(collegiality)、共同体性(communality)を損傷させる恐れがあり、神の民、信徒の参与ということ礎石として積み上げられている聖公会とルーテル教会の対話にとって、決して看過できない議論なのである。ノヴァスコシア会議は、こうした懸念をアングリカン・コミュニオンに伝え、ルーテル世界連盟に対しても適切なコメントをするように促すことを決議した。

今回の聖公会-ルーテル国際委員会は、来年4月にノルウェーのトロントハイムで開かれる。

## -- 女性デスクから -----

### 女性に対する暴力を考える

わたしたちの社会で家庭内暴力(ドメスティック・バイオレンス、DVとも略されます。)の問題が語られるようになってから、まだあまり長い時間はたっていません。2005年に発表されたある機関の報告によると、日本のある大都市に住む18歳から49歳までの女性のうち推計で15%が、何らかの形で夫や恋人からの暴力を経験しています。またこれらの人々のうち、警察に被害届を出している人は0.9%だということですから、いわゆる「家族の問題を外に出す」ことが、わたしたちの社会ではまだどれほど困難なことか、どれほど多くの女性たちが痛みと危険に耐えているかが推測されます。

妻に対する暴力と子どもへの虐待が同時に起こっている場合もあります。行政の対応によっては母親と子どもが「別々に保護される」場合もあり、大きな不安と苦しみが増し加わることにもなります。社会的な圧力が下へ下へと加えられ、外国から来ている女性たちや子どもたちの場合、さらに人間としての権利が守られないという危機にさらされるリスクが高いのです。教会の中で暴力の問題にもっと敏感になり、助け合いのネットワークと専門的な援助のシステムを作ることも、わたしたちの日ごろからの課題なのではないでしょうか。(東京教区カパティラン発行「サンバギータ」2006年3,4月号、女性の家HELP発行「ネットワーク・ニュース」2007年5月を参照させていただきました。)

女性に関する課題の担当者 /  
木川田道子、山野繁子

## 「第17回歴史研究者の集い」報告

「第17回歴史研究者の集い」は日本聖公会歴史研究会の主催で、2007年5月20日(日)より22日(火)まで開催された。

第一日目は、20日の昇天後主日の礼拝に大半の参加者が福井聖三一教会の主日礼拝に出席し陪餐後、会議場に移り、福井県芦原温泉「みのや泰平閣」の会議室にて午後4時から開始された。3日間の研究発表は次の通り。

「神戸聖ミカエル教会の成立時期について」  
 『八代斌助の思想と行動を探る』(ミネルバ書房刊)発行について(吉田弘)、「松山高吉・キリスト教との出会いについて」(塩谷栄二)、「管区文書保管委員会報告、東京教区資料保全委員会報告」(諫山禎一郎)、「国立公文書館・『再建日本の出発 - 1947年5月日本国憲法の施行展』について」(大濱徹也)。夕食後、「CMS宣教師・ミス・ルーシー・ペインの釧路における宣教活動と帰国の経緯をたどる」(中村一枝)、「『長野聖救主教会・聖堂聖別百年史』刊行について」(小林史郎)。

21日午前は、「美唄のキリスト者」(鈴木直子)、「柳原吉兵衛・貞次郎資料とその利用」(玉置栄二)、「牛島惣太郎関係資料の受入」(西口忠)、「米国聖公会宣教師・H・D・ペイ

日本聖公会歴史研究会会長 司祭 大江真道  
 ジのアーヴィング派嫌疑 - 異文化理解か異端嫌疑か - 」(大江満)。

発表後フィールド・ワークに出発した。30人乗りバスをチャーターして、福井教会の門脇光禅司祭が運転して案内、一筆啓上火の用心で有名な「丸岡城」と「朝井氏史跡・一乗谷」を見学した。

22日の最終日は午前9時から3人の報告を受けた。「英国宣教師チャモレーの英国におけるルーツ探索の旅の報告」(垣内茂)、「大英帝国と日本聖公会 - 『大英帝国という経験』(講談社)に関連して」(芥川壽哉司祭『勸奨状』について)、「三十九箇条(聖公会大綱)と日本聖公会」(大江真道)、「キリスト教会史における史料保存の歴史と、行政機関のアーカイブスについて」(大濱徹也)。

10時30分、中道政昭司祭の祝祷をもって終了した。好天にもめぐまれ、福井聖三一教会の牧師・信徒の暖かいホスピタリティを受けて22人の参加者は来年の再会を約し、感謝して帰途についた。



2007年 日本聖公会人権セミナー  
 主題 いのち 偏見と差別の中で  
 (ハンセン病問題への理解を深める)  
 日時 8月20日(月)15時~8月22日(水)  
 13時  
 場所 日本聖公会九州教区センター(福岡)、ひのくにふれあいセンター(熊本)  
 参加費用 20,000円(宿泊費、食費、資料代)

主催 日本聖公会管区人権担当・九州教区宣教局

申込先 日本聖公会管区事務所  
 締切 7月26日(木)

おもなプログラム 九州教区の取り組みと分かち合い、フィールドワーク(リデル・ライト記念館 国立恵楓園)、「証」、懇親会、聖餐式(菊池黎明教会)日程終了後オプション:水俣 北九州 筑豊

詳細は各教会へ送付の案内をご覧ください

大齋克己献金「海外教会宣教協力費」による支援先から

### Baan Sabaay

バーンサバイの関係者から献金のお礼状が来ましたので、ご紹介いたします。

(( バーンサバイへの支援は2006年に開始し、5年間献金する事をお約束しています。 ))

日本聖公会の皆さま

皆さま、お元気でおすごしでしょうか。いつもお支えいただきありがとうございます。このたびは、寄付金をありがとうございます。5年間続けて支援していただき、感謝いたします。今年は入院する方が続出し、現在も1名が入院しております。いただきました寄付金はこの方々のために使わせていただきます。

お働きの上に主のお恵みがありますようにお祈りいたします。 早川文野

❖ ❖ ❖

■ バーンサバイについて、ホームページにある情報を引用してご紹介いたします。

バーンサバイは、2002年7月、タイの北部、チェンマイに開設されたHIV感染者とAIDS患者のためのシェルター（緊急避難場）です。NGOとして活動しています。

タイでは、家族と地域が病気を患う人や高齢者をサポートするのが基本です。

しかし、家族を亡くしたり家族と離散したり、地域のコミュニティが崩壊している人も多くいます。タイ近隣国から移民してきた人や少数民族の人々のように、もともと立場の弱い人々もいます。このような人々が、バーンサバイに入寮します。

HIV/AIDSは単に医療だけの問題ではありません。バーンサバイは医療的ケアだけではなく、精神的ケアや自立支援も行っています。具体的に次のような活動をしています。

入寮者は、スタッフと一緒に寝泊りし、自分の生活のリズムと健康管理を覚えていきます。スタッフは患者が治療を受けるため、病院へ付き添います。

HIVと共存しながら、生計を立てて生活していく方法を一緒に考えます。

家族との関係調整や長期的な将来の設計をサポートします。

ニュースレターを年2回発行し、活動状況や会計を報告します。また、ボランティアや見学者を受け入れます。

バーンサバイがコミュニティと共生していくように、活動を理解してもらうことや、他のNGOと連絡調整を行い、ネットワークを広げていきます。

■ さらに詳しい事に関しては下記ホームページをご覧ください。

<http://homepage3.nifty.com/baansabaay/index.html>

---

*The Liturgical Desk Calendar 2008 年版* 予約受付中！ *The Liturgical Desk Calendar* および *The Liturgical Pocket Secretary* のご注文を予約にて受け付けます。価格未定。E-mail または Fax で下記宛、注文冊数、受取方法（郵送または管区事務所来所）、連絡先（郵送ご希望の方は住所も）をお知らせください。E-mail: matsumoto.po@nssk.org Fax : 03-5228-3175  
 予約受付：2007年7月末日まで。以後のご注文、キャンセルは出来ません。ご希望の方は忘れずにご連絡ください。（係 / 松本）

---

内閣総理大臣  
安倍 晋三 殿

2007年5月28日  
日本聖公会 正義と平和委員会  
委員長 谷 昌二

**「国民投票法案」と「米軍再編特別措置法案」の国会成立を  
深く憂慮し、抗議する声明**

去る5月14日、日本国憲法の改正手続きに関する国民投票法案が、その9日後の23日に、在日米軍基地の再編を促進する「米軍再編特別措置法案」が、政府与党(自民、公明両党)の賛成多数で強行採決されましたが、このことに関し深く遺憾の意を表します。

私たち日本聖公会は、神がどんな人をも一人ひとり無限に愛し、その命を奪っても、奪われてもならないとの信仰にたって、深い人権思想に基づき戦争放棄を謳っているわが国憲法第9条の改悪に反対する決議を、2004年5月の日本聖公会第55(定期)総会に於いて採択しています。ここに下記の理由により、私たちは、この度の両法案の国会成立を深く憂慮し、強く抗議いたします。

記

- 一、今回の国民投票法案の発案の根拠は、現憲法96条1項にあり、総議員の3分の2以上の賛成による憲法改正の発議後、「国民に提案して、その承認を経なければならない。」との文言によっています。これは、発議権が国会議員にあったとしても、承認にいたる過程では、有権者の声を丁寧にきく慎重さが不可欠であることを求めています。今回の強行採決では、その声として出ていた最低投票率制度の検討、公務員・教員の地位利用による国民投票運動の規制の検討、メディアの有料広告規制の検討などの問題が付帯決議とされ、審議不十分のまま強行採決されたことに強く抗議します。なぜ拙速に法案の成立をあなたは急いだのか。あなたは首相在任中の改憲を公言し、その真のねらいが9条改憲にあり、最近の集団自衛権をめぐるあなたの発言を聞きますと、国民投票法案成立の9日後に成立した米軍再編特別措置法と不可分な関係にあることが察知されます。
- 二、米軍再編特別措置法は、昨年5月の日米安全保障協議委員会における両政府の最終合意に基づく在日米軍再編を財政的に裏付けようとするものです。在日米軍再編とは、6年前の9.11同時多発テロ後、世界規模で進められている米軍再編の一環として、在日米軍と自衛隊との融合、一体化と、沖縄に集中している米軍基地での訓練の一部移転、基地機能の日本国内への分散化など、あなたが言う日米同盟の軍事同盟化を益々進めていくものです。特に、沖縄での米軍普天間基地の移設も含め、基地や訓練の負担が増える自治体に対しては、再編の進み具合に応じて交付金を配分する「再編交付金」制度を今回の特別措置法で新設したことは、平和を願い、基地撤去を願う住民の平和的生存権を否定しようとする反憲法的制度であると強く抗議します。

2005年10月28日に出された自民党改憲案から削除されている、現憲法前文にある、「われらは、全世界の国民がひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。」を再確認していただき、憲法を逸脱したあなたの政策を一刻も早く改めていただきたい。又、主イエスのことば、「剣をさやに納めなさい。剣を取る者は皆、剣で滅びる。」「(マタイによる福音書26章25節)」を真剣に受け止め、戦争によって、わが国を滅びにいたらしめる誤りを、繰り返すことのなきことを切に求めます。